

令和3年3月9日（火）

（午後1時55分 再開）

○議長（土井裕美子君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番10、2番 垣内さん。

〔2番（垣内憲一君）登壇〕

○2番（垣内憲一君）皆さん、こんにちは。令和クラブの垣内憲一です。

議長のお許しを頂きましたので、一般質問をさせていただきます。

仮称紀見こども園整備計画について。

去る2月10日の令和2年度橋本市子ども・子育て会議を傍聴したところ、仮称紀見こども園整備計画の概要について事務局から説明がありました。内容は、令和7年度の開園をめざして紀見保育園、紀見幼稚園、境原幼稚園、そして柱本幼稚園を統廃合し、現在の柱本幼稚園の場所に新しく園舎を建て替え、公設公営のこども園化を進めるということでした。

施設の老朽化が進む現在の各園舎から、地震に強い安心安全な新園舎になることはありがたいことですが、場所については市内の北端となり、これまで紀見保育園や紀見幼稚園、境原幼稚園を利用している保護者から見ると距離が遠くなり、送迎時間もこれまで以上にかかることが予想されます。

どのような流れで検討されたのか。地域に根差したこども園整備計画になってほしいので、お伺いします。

- 1、仮称紀見こども園整備計画の経緯について。
- 2、場所の選定について。
- 3、施設規模、定員について。
- 4、公設公営の方式の在り方について。

以上、壇上からの質問を終わらせていただきます。よろしくお願いします。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さんの質問、仮称紀見こども園整備計画に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（吉田健司君）登壇〕

○健康福祉部長（吉田健司君）仮称紀見こども園整備計画についてお答えします。

今回の仮称紀見こども園整備計画は、公立園の幼児教育・保育サービスの量の確保と質を継承し、施設の老朽化と利用園児数の減少等に対応するため、紀見保育園、紀見幼稚園、境原幼稚園及び柱本幼稚園の北部4園を統廃合し、令和7年度に公設公営の幼保連携型認定こども園の新規開園をめざすものです。

まず一点目の仮称紀見こども園整備計画の経緯についてですが、既存の保育園、幼稚園用地を基本とし、園舎、園庭、駐車場の配置や周辺道路などの環境を考慮し、計画の候補地を議論しました。それまでは施設の老朽化が進んでいる紀見保育園と紀見幼稚園の統廃合を検討していましたが、この2園に加え、近年、園児数の減少が続いている境原幼稚園と柱本幼稚園を含めた北部地域の公立4園をこども園化の対象としたところでした。開園年度については、第2期橋本市子ども・子育て支援事業計画において令和6年度と計画していましたが、在園児への影響を鑑み、令和7年度に計画変更しました。

次に二点目の場所の選定についてですが、当初は紀見保育園を建て替える方向で検討していましたが、前面市道の幅員が狭いことや工事中の代替保育が難しいことから、周辺環境の利便性と安全面を考慮し、市内北端とな

りますが、柱本幼稚園の場所を本計画地に選定しました。

次に三点目の施設規模と定員については、現在の柱本幼稚園が限られたスペースになるため、隣接する紀見ヶ丘3号公園の一部を駐車場用地に確保したいと考えています。また、園庭を確保するため園舎を2階建てとし、受入定員は既存4園の園児数より推計し、95名を予定しています。

最後に四点目の公設公営方式の在り方についてですが、本計画は本市でも初めての公設公営の幼保連携型認定こども園整備計画になります。これまで本市は指定管理制度や公私連携方式により民営化を進めてきましたが、今回は直営による公立唯一の幼保連携型認定こども園となるため、まずは保育士と幼稚園教諭の職員間の連携を図っていきます。先を見据えスムーズな在園児の引継ぎと地域に根差した公立園につなげたいと考えています。

具体的には、これまで公立園が大事にしてきた子ども一人ひとりの発達の特徴や個性に寄り添った丁寧な保育を継承し、公立ならではのこども園をめざしたいと考えています。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん、再質問ありますか。

2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）経緯や場所の選定についてはよく分かりました。

それでは、幾つか質問させていただくんですが、まず場所についてですが、柱本幼稚園の場所というのは、これは決定ですか。開園まであと4年ありますが、ほかにふさわしい場所や候補地が出てきたとしても、計画地の変更や見直しをされることはないのでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）この計画については約2年間、市内部で検討してまいりま

した。計画として決定しましたので、文教厚生委員会なり、子ども・子育ての会議で発表させていただきました。ほかの場所もいろいろ検討したんですけども、これからも検討するとなると、平屋建てですと約4,000㎡ぐらいの土地が必要となります。ということで、柱本幼稚園の場所で来年度から説明会等を進めていきたいと考えております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）いろいろと検討されたとは思いますが、私が地元の方から聞かれるのは、なぜそんな場所に決まったのかということですか。

次の質問に入るんですが、令和3年度に開園を迎える公私連携の山田さつきこども園は、旧の柏原保育園の場所に新園舎を建設しており、統廃合の対象となった岸上、柏原、山田保育園の3園のちょうど真ん中の場所になっているんですけども、通常はこども園に統廃合される園の中心付近を候補地として考えると思うんですが、今の紀見保育園の場所ではこども園整備計画は進められないということでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）お答えします。最初の答弁でも申し上げましたけども、当初は紀見保育園と紀見幼稚園を統廃合する予定でした。その中で今現在ですけども、紀見幼稚園については来年度、園児数が20名から13名になります。それから、境原幼稚園については10名から8名、柱本幼稚園は16名から9名となるということで、非常に幼稚園児が減ってくるということで4園の統廃合に決定させていただきました。距離的には離れるということで、いろいろ政策調整会議とかでも検討させていただきました。

当初予定していたのは、答弁にもありましたように紀見保育園の場所ですけども、園の

前の市道の幅員が非常に狭いということと、保護者の送迎の車両が交差しづらい環境にあるということです。今、山田さつきこども園、ほとんど出来上がっているんですけども、ここについてもいろいろな場所を検討してきました。ここについては保護者の理解もあったんですけども、岸上保育園と山田保育園を代替保育に使えるということでそこはうまいこといったんですけども、今回、紀見保育園の場所となりますと、約70名ぐらいの今園児数があるんですけども、これの代替保育が非常に厳しい。だから、園をやりながら工事となりますと園児の安全面の不安もあるということで、紀見保育園の場所については諦めざるを得なかったというのが実情です。その中でいろいろな場所を考えた結果、最終的には少し離れますけども、柱本幼稚園の場所を決定させていただきました。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）紀見保育園の場所が難しいことについてはよく分かったんですけども、それを受けて次の質問に入るんですが、例えば、境原幼稚園は少人数ながら境原小学校と併設しており、運動会も一緒に開催するなど今、小学校との連携がうまく取れていると思います。次の計画はあまりにも距離が離れており、保護者の送迎の負担も大きくなりますし、子ども・子育て会議でも意見があったように、あの場所は冬場に道路が凍結する恐れがあると保護者よりお聞きしましたが、その点は考慮されなかったということでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）先ほども申しましたように、この計画については約2年間、庁内で検討しました。いろいろな意見も出ましたし、いろいろなことについても検討させていただきました。清水幼稚園、学文路幼稚

園の統廃合についても私、関わったんですけども、同じように小学校との連携をやっているとして非常に保護者からのいろいろな意見も出ましたけども、やっぱり園の安全と老朽化という問題でその辺は理解していただいたと思っております。

今のご質問ですけども、距離が遠くなるということで今の在園児に影響のないように、開園年度を令和6年度から令和7年度に変更させていただきました。境原幼稚園は運動会を小学校と合同してやっており、そこは場所が変わるということで申し訳ないんですけども、次の紀見こども園につきましては柱本小学校が近いので、そこと連携して新たな小学校とこども園の連携を図っていただきたいと考えております。

その次に、冬の時期の凍結の問題ですけども、紀見地区というのは橋本市の北部にありまして、年に数回どこの場所でも凍るんじゃないかと思っています。ここの場所についても数回凍ると思うんですけども、その辺は保護者には気をつけて送迎していただきたいと考えております。

以上です。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）遠くなりますが、小学校との連携は運動会の行事だけでなく大事にしてほしいので、そこはお願いしたいところです。

あと、冬場については、雪が降った次の日の朝は大丈夫かなと、ほんまにそこはどうしても気になってしまうところでございます。

では、次の質問なんですけども、子ども・子育て会議では市長のあいさつの中で、紀見こども園計画は小規模園になるとお話がありました。ご答弁で施設の定員は95名を考えているということですが、小規模園といえば95名よりももう少しこぢんまりしたほうがええ

んちゃうかなと思うんですが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）答弁にもありましたように、言いましたように、令和2年度の北部4園の園児数が約100名ということで95名ということで今考えさせていただいていますが、小規模園の定義って私もいろいろ勉強したんですけども、確定した数字はなかったようです。橋本市の場合、公立園がたくさんあったということで、特に山田保育園なんかは二十数名の小規模園やった。その辺を考えますと95名って非常に多いんですけども、これまでこども園計画でやってきたところについては150名から200名ぐらいの大規模なこども園が多かったんで、この95名についてはそれに比べれば小規模と考えております。

それと、先ほど答弁にも言いましたように、幼稚園児が非常に少なくなりまして今後少子化ということで、今の時点での95名ということで、最終的には開園時には80名ぐらいの園児数のこども園になるんじゃないかと思っていますので、その辺はご理解をお願いしたいと思います。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

本当に小規模を売りに出すなら、定員はもう少し小さくしたほうが私はよいと思います。

次の質問になるんですが、市内で初めてとなる公設公営のこども園ということで、これまでの指定管理制度や公私連携方式と異なる部分がありますか。子ども一人ひとりの発達や個性に寄り添った丁寧な保育を継承したいという答弁がありました。これまでのこども園整備計画との違いがあれば教えてください。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）お答えします。先ほどの答弁と重なるところもあるんですけども、まず指定管理の公設民営と異なるところは、これまでの保育所型のこども園ではなく、公立初となる幼保連携型の認定こども園であるということです。

ハード面では、これまで本市は3園から5園の公立園を統廃合して、定員156名から246名という大規模な公設民営のこども園を整備してきましたけども、今回はそうではなく、100名以下の小規模園と考えております。

またソフト面では直営ということで、山田保育園のように市の中心部から外れたのどかな環境を生かして、また、今年度横にたんぼ園が開園しますけども、たんぼ園の交流も考えていきたいと思っています。少人数で子どもを丁寧に預かりたいとも考えております。そして、公私連携方式の引継保育のように、公立が大事にしてきた子どもの発達支援について継承していきたいと考えております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。以前にも一般質問したことがありますが、子どもの発達支援については本当に大事にしていきたいと思っています。

次の質問なんですが、保育士や幼稚園教諭の先生はそのまま紀見こども園に移動する形になりますか。4園を統廃合すると、人員が余ってくることはないのでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）お答えします。今回も岸上保育園と山田保育園がなくなるといって園が少なくなるんですけども、保育士については2名採用させていただいたのかな、ということで、保育士については今はいけています。

それと今、議員おただしのように、4年後にたんぼ園と、それから紀見こども園だけ

になります。ただ、2年、3年後から今の保育士の退職が増えてきますので、この2園に保育士と幼稚園の教諭を配置する形になるんですけども、余ってくる形にはならないと考えております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）答弁の中で保育士と幼稚園教諭の連携を図るということがありましたが、具体的にどういったことをされますか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）お答えします。これまで保育士と幼稚園教諭の交流というのがほとんどありませんでした。今回はこども園を公設公営でつくるということで、まずはお互いの保育・教育内容を知ってもらう。保育園と幼稚園のいいところを出し合って、連携して研修なりをやってもらう形になると思います。公立でできる教育・保育内容を先生たちで考えてもらう。一緒に研修会をしたり、新しいこども園についての保育理念や狙いについてもスクラップ・ビルドをしてもらい、新鮮味を持って自分たちの園の理想をつくってもらう形にこれからなっていくと思います。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。本当に先生方に新しい学校をどうしていきたいかって、先生たちの思いも込めて新しい学校づくりってしていただけたら本当にありがたいと思います。

これから保護者の方や地域にはどういった手順で、この学校のことを説明されていく予定ですか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）先ほどからも言いましたように、岸上と山田がなくなりました。今回、紀見保育園もゼロ歳児保育をやっていきます。令和3年度に紀見保育園に入園予定のゼロ歳児、1歳児の保護者の皆さま

には、令和7年度に紀見こども園計画があることを1月の内定通知の際にお知らせしております。2月末の入園説明会でも説明していく予定にしております。これは令和3年途中入園の申込み時や令和4年度以降の入園申込み受付の際にも継続して説明していく予定にしております。そして、設計等の時期を見て在園児の保護者説明会を開催していく予定です。詳細はまだ先になりますけども、地域の皆さまについては来年度から紀見区長会や紀見ヶ丘の自治会等、こども園計画について説明していく予定となっております。

以上です。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）こども園化を進めるには保護者や地域の協力も必ず必要となりますので、説明だけはきっちりしていただきたいと思います。

最後になるんですが、これから4年をかけてどんなこども園にしていきたいのかお伺いします。長年にわたり民営化を進めてきたこども園整備計画の中で、あえて公立1園だけを残すということで、具体的な構想があればお聞かせください。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）お答えします。今の時点ですし、非常に大事なところですので、今後もそれについては検討していく余地があると思うんですけども、今の時点の構想なりをしゃべらせていただきます。

今のところですけども、いきなりの大集団保育ではなく、少人数を希望する保護者や発達が必要と分かっても通常保育に入れたいという保護者の気持ちを酌み取って、今までの山田保育園の存在を引き継ぎたいと考えています。

今年新築移転するたんぼぼ園との交流ができる距離にあるので、園の先生方には子どもの発達に関するスキルを上げてもらいたい。

それともう一点になりますけども、子どもだけでなく保護者自身に支援が必要な家庭は市内でたくさんあります。そんな家庭のお子さんを包容力を持って受け入れてきたのが公立園の役割だったと考えています。経験豊富な先生がそろいますので、子どもだけでなく若い親もフォローできるこども園をめざしたいと考えております。

以上です。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。私も地元ですので、幼稚園が廃園になるのか、どこに新しいこども園ができるのなど、最近になってこども園整備計画に関する事などをいろんな地域の保護者から聞かれることがあります。今新しく工業団地の開発もされていますし、あやの台、紀ノ光台というところにもたくさんまた人が入ってきていただけるようになってほしいので、今すぐに幼稚園があそこに移るということには、私も賛成は正直なところできません。そやけど、市がこれでしっかり前を向いて方向性を持って、何よりも利用する側の目線に立って、保護者や園の先生ともしっかり先生らの意見も聞かせていただいて、整備計画を進めてほしいと思います。

ただ、定員については場所が場所だけに、小規模園を売りに出すなら、本当にもう少し小さいほうがええんじゃないかなと私は思うんですけども、どちらにせよあと4年あるので、紀見こども園整備計画については第2弾の一般質問を今後させていただくことになると思うんですけども、そのときはどうぞよろしくお願いします。

これで私の一般質問は終わらせていただき

ます。ありがとうございました。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さんの一般質問は終わりました。

この際、2時35分まで休憩いたします。

（午後2時21分 休憩）